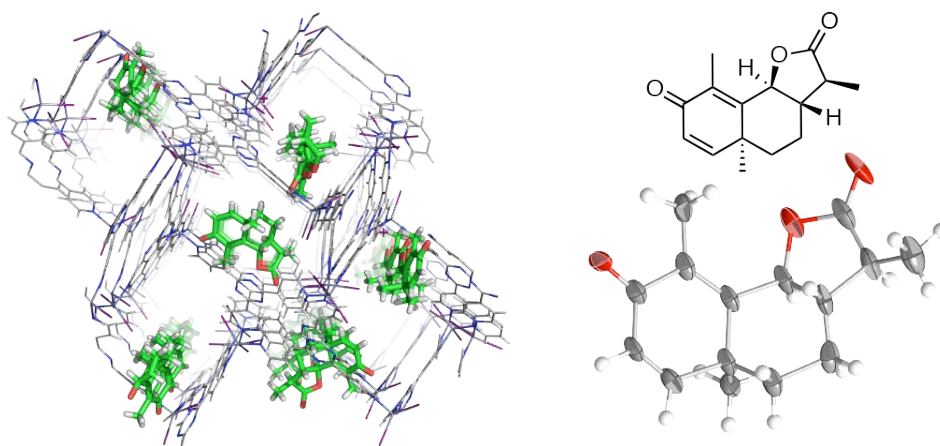


2012年10月27日、応用化学専攻 博士1年 吉岡翔太さんが、Japanese-German Symposium on Coordination Programmingにおいて、ポスター賞を受賞しました。



細孔性錯体結晶にマイクロナノグラムの非晶質サンプルを包接することで痕跡量化合物から結晶化の過程を経ることなくX線結晶構造を得る手法を確立した。

細孔性錯体は結晶性のホスト化合物として、試料を包接することでX線構造解析が可能な単結晶試料を与える。本手法を用いて試料を包接することで50 ngのアモルファス試料や薬理活性化合物、微量の海洋天然物の絶対構造を次々と決定することができた。



決定された薬理活性化合物（サントニン）の絶対構造

（左図）細孔性錯体に包接されたサントニン（緑）（右図）サントニンの絶対構造

ご指導を賜りました藤田 誠教授、猪熊 泰英助教ならびに藤田研究室の皆様にご場を借りて御礼申し上げます。